

株式会社十文字サントップ

代表者 平沢 邦朗

住 所 秋田県横手市十文字町上銅倉字西坊田野20-1

連絡先 TEL 0182-42-0551

FAX 0182-42-0550

U R L <http://www.suntop.co.jp/>

資 本 金 900万円

設立年月 昭和63年7月

従 業 員 91人



設備投資による生産効率向上を図り受注増加に対応 収益力の強化と従業員の雇用条件引き上げを実現

当社は専門店や百貨店向けの一流ブランド品のスラックスを中心に製造する縫製業者です。製品は国内アパレルメーカーからの委託加工として受注しています。国内の縫製業者が減少するなか、当社の品質の高さや精度、納期遵守、スピード感、柔軟性などが評価され新規先からの問合せが増加していましたが、既存設備の生産能力からは、新規受注は見送りせざるを得ない状況が続いていました。そこで、設備投資による生産性向上を目的として補助事業を活用させていただきました。

Question

Q 御社の強みを教えてください。

A メンズ・レディースのフルアイテム対応や系列の国内外の工場との一貫生産体制、東京のCADルームでのデザイン提案です。



導入したP-CAM(自動裁断機)

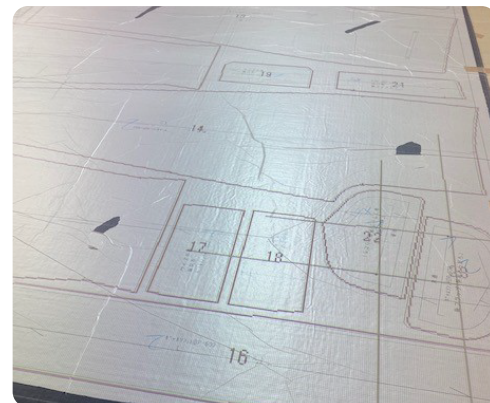
専務取締役
樋渡 誠さん



本事業への取り組みの経緯

材料や燃料、電気、運賃等の製造コストが高騰していましたが、海外との激しい価格競争から販売価格には転嫁できない状況が続いていました。また、高品質な製品を提供できる国内業者が減少するなか、新規先からの受注依頼が増加していましたが、当時の生産能力では断るざるを得ない状況にありました。さらに、縫製業の賃金水準は他業種に比べ見劣りする状況にありますが、新規採用の増加や定着率の向上を図るためには、雇用条件の引き上げが課題でした。

こうした課題の解決に向け、まずは3M(ムリ、ムラ、ムダ)となっていた工程の洗い出しを行いました。

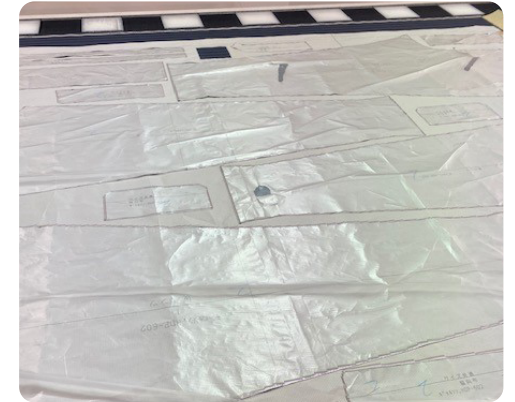


プロジェクター投影機で投影した様子

実施した内容(取り組みの詳細)

一流ブランド品の柄物の裁断は、熟練技術者による目視と針刺し作業で行っていました。また、旧式の自動裁断機ではデータをタッチパネルで手入力していたため、誤入力による誤裁断で生地再調達や納期遅延が発生していました。さらに、スラックスの後ろポケットの仕様(玉縁)はメーカーや製品ごとに異なるほか、多品種少量生産のため段取り(ゲージ交換等)に時間を要していました。

ボトルネックとなっていた柄合わせ裁断工程と玉縁製作工程に最新の自動裁断機と玉縁機を導入しました。



投影したマーキングデータを基に裁断した様子



導入した自動玉縁機

取り組みの成果・波及効果

自動裁断機は、プロジェクター投影機とカメラの融合で、正確な柄合わせと裁断が可能となり生産性が30%向上しました。QRコードやバーコードで裁断データを瞬時に読み取るため、入力ミスや生地の品番切換えにともなう段取り変更等のロスが20%減少しました。また、玉縁ポケットのゲージ交換(両玉縁⇄片玉縁)に90分程度要していましたが、半分に短縮できました。これにより縫い始めから縫い終わりまでのサイクルタイムは従来比35%短縮しました。

設備導入による生産効率の向上で新規受注を増やすことができ、収益力が強化されたことで従業員の賃上げも実現することができました。



玉縁工程の作業の様子



片玉縁の製品例

今後の展望・活動予定

近年、ビジネスシーンでのスーツ離れが進んでいることに加え、コロナ禍による在宅勤務の増加により、アパレル業界ではフォーマルの需要が落ち込んでいます。当社では、コロナ感染拡大後に使い捨ての医療用ガウンを製造し、全国の医療現場需要に対応しています。

業種柄、女性の従業員が多く、仕事と家庭を両立しています。また、土地柄、家族が農家を営む従業員も多いです。家庭や農作業の都合で予定に無い休暇や遅刻・早退を希望する場合、取得しやすい環境づくりに努めています。また、休暇等の取得で生産性が低下することのないよう、従業員の多能工化にも取り組んでいます。



医療現場からの需要が増加している使い捨て医療用ガウン